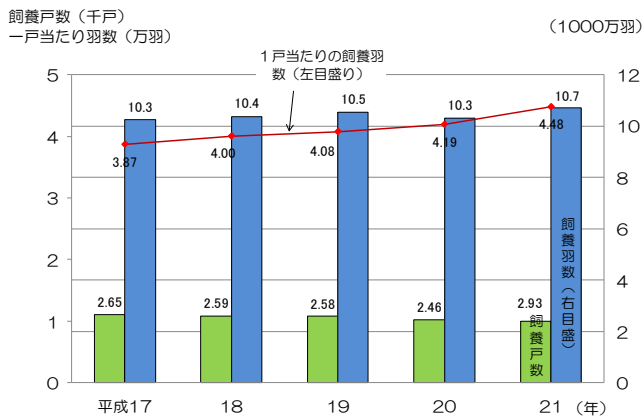


# 鶏肉

## ◆飼養動向

21年2月のブロイラー飼養羽数は、1億714万羽と前年を4.0%上回る(21年データは未公表)

図1 ブロイラーの飼養戸数および飼養羽数



資料：農林水産省「平成21年食鳥流通統計調査結果の概要」

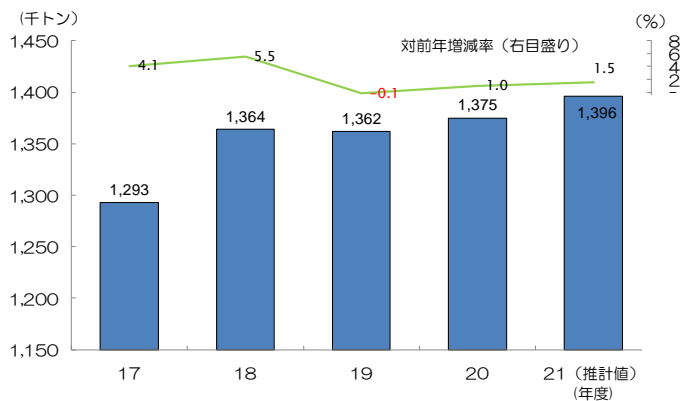
注：数値は各年の2月1日現在、22年データは未公表

ブロイラーの飼養羽数は、18年以降20年を除き増加傾向で推移し、21年は4.0%増となった。飼養戸数は、小規模飼養者層を中心に引き続き減少し、21年には2,392戸(前年比▲2.6%)となった。1戸当たりの飼養羽数は、大規模飼養者層が増えたことを反映し増加傾向で推移しており、21年は4.5万羽(6.9%)とかなり増加した(図1)。

## ◆生産

21年度の鶏肉生産量は、139万6千トン(推計)と前年度を1.5%上回る

図2 鶏肉の生産量



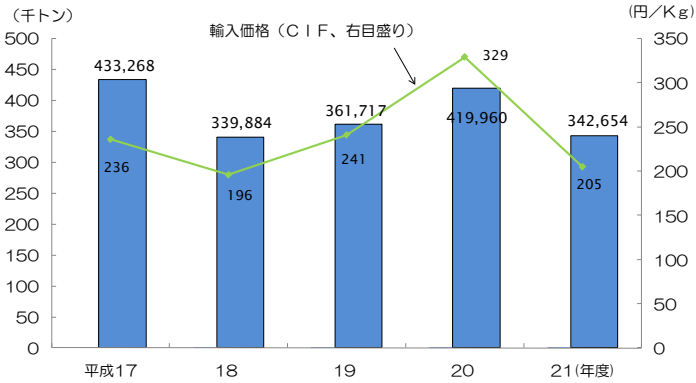
資料：農林水産省「食肉流通統計」、農畜産業振興機構推計

注：骨付き肉ベース

鶏肉の生産量は、国内外でのBSE発生による代替需要や、海外での高病原性鳥インフルエンザの発生による輸入量の減少などから増産意欲が高まり、18年度は国産志向の高まりなども相まって、ともに4%を超える高い伸び率となり、19年度は137万2千トン(0.5%)、20年度は138万6千トン(1.0%)となった。根強い国産志向に加え景気の低迷による安価な鶏肉への需要も高まったことなどから、21年度(推計値)はさらに上回り139万6千トン(1.5%)となった。

◆輸 入

21年度の輸入量は、前年度を大幅に下回る、34万3千トン(▲18.3%)



資料：財務省「貿易統計」

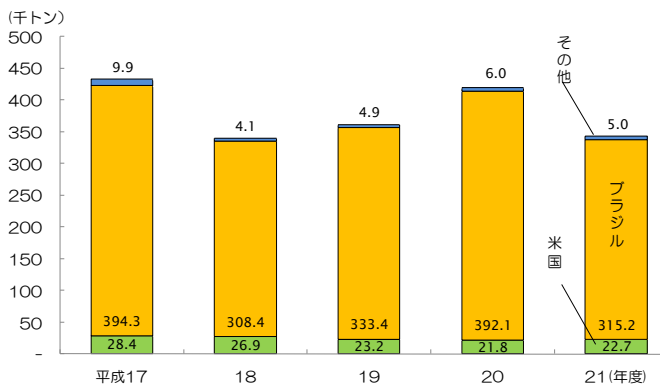
注：生鮮・冷蔵品を除く

鶏肉の輸入量は、そのほとんどが冷凍品で、業務、加工向けなどの需要にあった安価で使いやすい製品が供給されてきた。

19年度は消費者の低価格志向や、業務・外食用での国産ニーズの高まりなどの影響で、国産鶏肉の価格が高水準で推移したことから、前年度比6.4%増の36万2千トンとなった。20年度前半にかけては、引き続き国産鶏肉価格が前年度を大きく上回って推移したことなどから、前年度を16.1%上回る42万トンとなった。

21年度は期首在庫を大量に抱えていたため、34万3千トン(▲18.3%)と前年度を大幅に下回った(図3)。

図4 鶏肉の国別輸入量

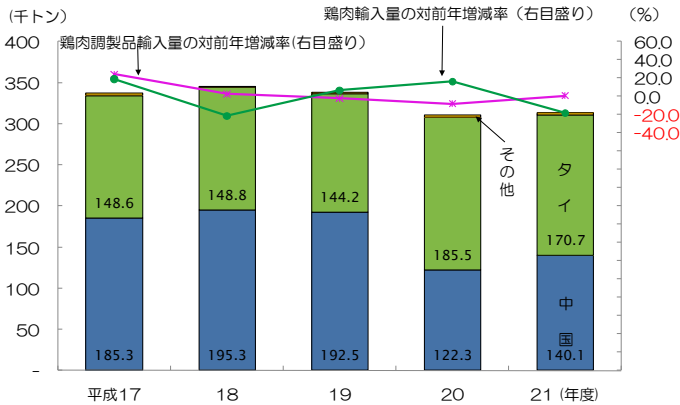


資料：財務省「貿易統計」

輸入先を国別に見ると、ブラジル産が全体の約9割を占め、21年度は91.9%となった。米国からの輸入量は、高病原性鳥インフルエンザ発生により、たびたび輸入停止措置がとられたため、全体では5~6%台で推移している(図4)。

調製品

図5 鶏肉調製品の国別輸入量



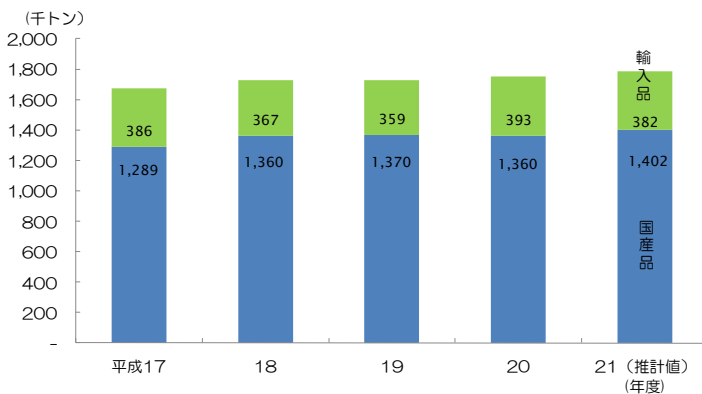
資料：財務省「貿易統計」

鶏肉調製品(焼き鳥、チキンナゲット、唐揚げなど)の輸入量は、安い素材を求める外食・業務用製品向けとして、中国、タイを中心に輸入されている。17年度以降は3万トンを上回って推移していたが、20年度は中国産冷凍ギョーザ事件の影響などにより中国産を中心に減少し、31万トン(▲8.1%)となった。21年度は景気低迷を受けた低価格志向から前年度を上回る31万3千トン(0.8%)となった。中でも中国からは中国国内での生産体制が徐々に整備されてきたことを受けて、14万トン(14.6%)と急増した(図5)。

◆消費

21年度の推定出回り量は、前年度を上回る178万4千トン(1.8%)

図6 鶏肉の推定出回り量



資料：農畜産業振興機構調べ、農林水産省「食鳥流通統計」、財務省「貿易統計」

鶏肉の推定出回り量は、近年、前年を上回って推移し、このうち、21年度は178万4千トン(1.8%)となった(図6)。

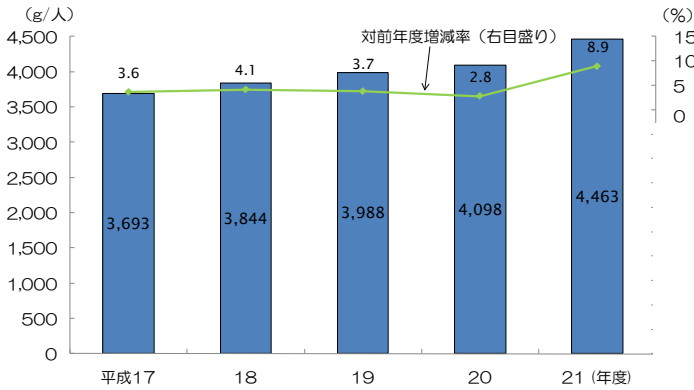
国産品は、消費者の国産志向の高まりなどからおおむね増加傾向で推移し、21年度は140万2千トン(3.1%)となった。

一方、輸入品は近年減少傾向で推移しており、20年度は輸入量の大幅な増加から、前年を上回ったものの、21年度は38万2千トン(▲2.8%)と減少した。

◆家計消費

21年度の家計消費量はほかの他の食肉を上回る伸び率(8.9%増)

図7 鶏肉の家計消費量(1人当たり)



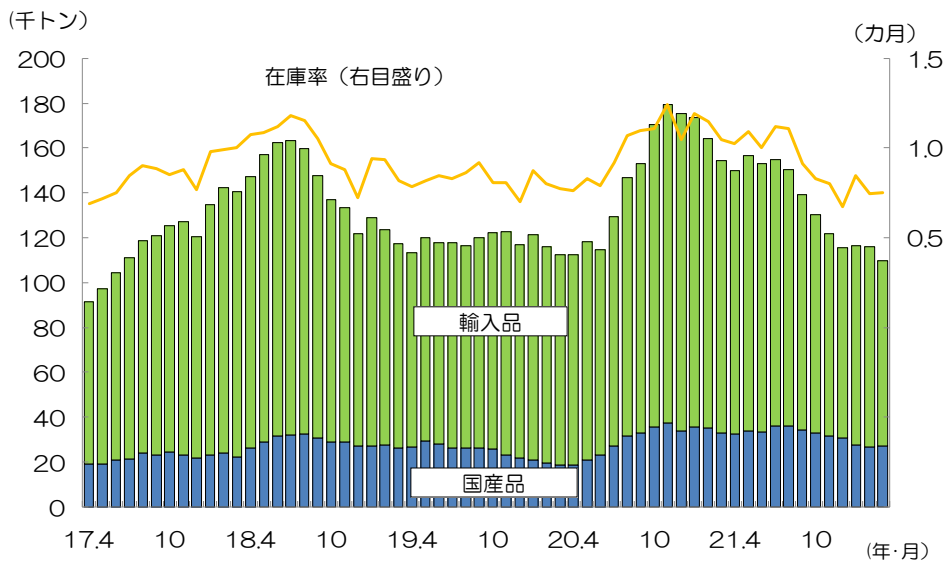
資料：総務省「家計調査報告」

鶏肉の家計消費量は、16年度以降堅調に推移しており、21年度についても、国産品が、特にむね肉が安価だったこともあり、4,463グラム(8.9%)と前年を上回って推移した(図7)。これは、牛肉(7.2%)、豚肉(1.7%)を上回る伸び率であった。

◆在庫

21年度期末在庫は、前年度を大幅に下回る11万トン(▲28.9%)

図8 鶏肉の推定期末在庫量と在庫率



資料：農畜産業振興機構調べ

注：在庫率=在庫量/推定出回り量

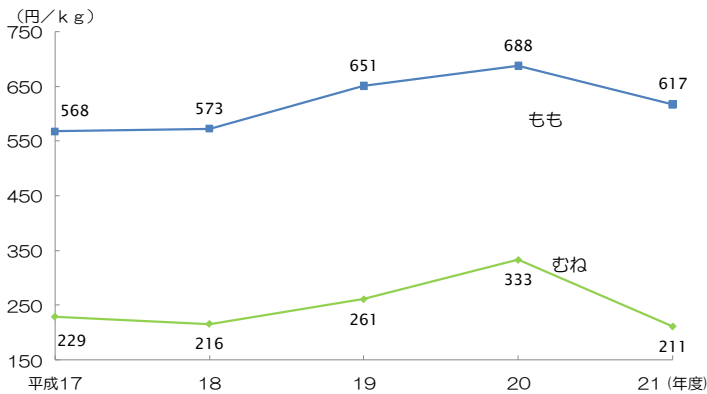
鶏肉の推定期末在庫量は、輸入量の変動を大きく反映している。18年度はブラジル産の輸入量が大幅に減少(▲21.8%)したことが影響し、全体の在庫量もかなりの程度減少した(▲16.6%)。19年度は前年を下回った(▲4.2%)が、20

年度は、前年度からのブラジル産の輸入急増により在庫が積み増され、前年度を大幅に上回った(37.0%)。21年度は大量の期首在庫を受けて、輸入量が抑えられたことから、11万トン(▲28.9%)となった(図8)。

### ◆卸売価格

21年度はもも肉(▲10.3%)、むね肉(▲36.6%)、ともに下落

図9 国産鶏肉の卸売価格



資料：農林水産省「食鳥市況情報」、「ブロイラー卸売価格」

注：消費税を含む。

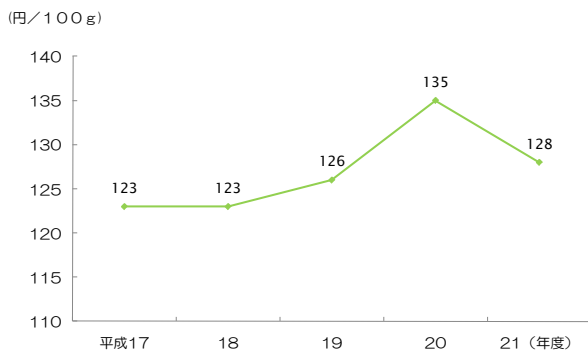
国産鶏肉の卸売価格(ブロイラー卸売価格・東京)のうち、主にテーブルミートに仕向けられる「もも肉」については、18年度以降前年度を上回って推移し688円となったが、21年度は、前半の価格安が影響し、年度平均では617円(▲10.3%)と大幅に前年度を下回った。

一方、主に加工・外食用途の「むね肉」は、輸入品との競争により18年度まで一貫して低水準で推移した。しかし、19年度は輸入品卸売価格の上昇や、業務・加工業界での国産品の引き合いが強まり、また、20年度も引き続き高値で推移したことから、前年度を大幅に上回った。21年度は輸入品在庫が過剰だったこともあり、競合するむね肉価格が低下、同211円(▲36.6%)と3年ぶりに値を下げた(図9)。

### ◆小売価格

21年度の小売価格(もも肉・東京)は、前年度を4.8%下回る

図10 鶏肉の小売価格(もも肉・東京)



資料：総務省「小売物価統計調査報告」

鶏肉の小売価格(もも・東京)は、19年度に食品全般の価格高騰の動きの中で100グラム当たり126円(2.4%)と上昇し、20年度も前年度を上回った。しかし21年度は卸売価格の低迷を受けて、量販店での特売品が増加したことなどから128円(▲4.8%)と前年度を下回った(図10)。